

【次期新潟市住生活基本計画を分かりやすく伝えるための工夫】

資料1-3

①計画の全体像を掲載

★計画書全てを読まなくても、概要が把握できる。
(最後まで読まないとも内容を理解できない計画は分かりにくい。)

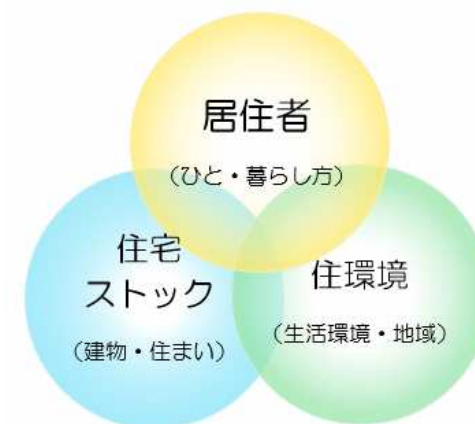
- 計画の全体像を最初に記載し、概要を分かりやすく伝える。
- 横断的なつながりを示し、理解を深める。
- 特に大事な第5章（施策の展開）には、第5章の全体像を記載する。

The image shows a screenshot of the 2025 Niigata City Housing and Living Basic Plan. It features a table of contents with various sections highlighted in different colors (yellow, blue, green). The sections include: 1. Plan Overview, 2. Basic Policy, 3. Basic Direction, 4. Key Strategies, and 5. Policy Implementation. The table lists the page numbers for each section and provides a brief description of the content. The layout is clean and organized, making it easy to navigate through the document.

②計画の視点を分かりやすく

★多様化する住宅政策を分かりやすく示すための視点を定める。

- 住宅政策を分かりやすく示すため、住生活を取り巻く要素を代表する「居住者」「住宅ストック」「住環境」の3つの視点から、現状と課題を整理し、基本目標・基本方針・取り組むべき施策を一貫して示す。
- 住生活をめぐる課題は、ひとつの視点のみで解決されるものだけではないため、複数の視点に関係する施策は、どちらの視点にも記載する。



③現状と課題のつながりを分かりやすく

★現状と課題を分断せず、詳細な現状分析は課題とともに記載する。

- 現計画では、現状分析と課題を別立てとしている。
(現状分析はデータが多いため、ページ数が膨らみ、結果的に現状と課題が分断している)
- 第2章（住生活を取り巻く現状）では、全体的な傾向を示す現状分析を記載し、第3章（住生活の課題）で、より詳細な現状分析を課題とともに示すことで、現状から課題へのつながりを分かりやすく記載する。



④施策の方向性と具体的な取り組みを分かりやすく

★施策の方向性と具体的な取り組みを併記する。

- 現計画では、施策の方向性と代表的な具体的な取り組みを別立てとしている。
(施策の方向性と具体的な取り組みが分断している)
- 施策の方向性と具体的な取り組みを一体的に把握できるよう、ページ見開きで記載する。



施策の方向性

具体的な取り組み